



**県内の強豪が熱戦**

■5月4日、全日本学童軟式野球大会県予選大会が開催され、県内各支部から16の代表チームが熱戦を繰り広げました。枕崎支部からは枕崎野球スポーツ少年団が出演。1回戦で惜敗したものの、懸命なプレーに会場からは大歓声が送られていました。



**親子で楽しくスケッチ**

■親子スケッチ教室が5月12日に行われ32人が参加しました。参加者は青空美術館の作品や枕崎駅舎を親子で楽しみながらスケッチしていました。



**新1年生全員に傘を贈呈**

■5月8日、枕崎地区安全運転管理協議会から小学校新1年生への傘の贈呈式が立神小学校で行われました。この傘の贈呈は、交通安全の意識向上を目的として、市内小学校の新1年生全員を対象に4年前から行われているものです。



**感謝の気持ちを込めて**

■5月12日、妙見グラウンドで宝寿庵地区球技大会が開催されました。準備運動のあと、日頃利用しているグラウンドへ感謝の気持ちを込めて、参加者全員で石ころ拾いを行いました。



**会場みんなで音を楽しむ**

～第7回枕崎ミュージックフェスティバル

枕崎ミュージックフェスティバルが5月18日、市民会館で行われました。今回は世界各地で活躍する、トランペット奏者のアレクセイ・トカレフさん、中国人二胡奏者の段琳さん、母が枕崎出身であるバリトン歌手の福嶋勲さんなどが出演し、国内外で活躍する音楽家たちの美声や奏する音色に観客約800人は聞き入っていました。最後は出演者・来場者全員で「ふるさと」を歌い、会場全員で音楽を楽しんだひと時となりました。

また、前日には、アレクセイ・トカレフさんによるトランペット教室が枕崎小学校で開かれ、参加した児童・生徒たちは真剣なまなざしでトカレフさんの動きのひとつひとつを見つめ、一流の技術を学ぶまたとない機会となりました。



**100歳おめでとうございます**

～濱崎ナミさん(木場町)

濱崎ナミさんが5月26日、めでたく100歳の誕生日を迎え、同日、市と市社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

遠方にお孫さんたちからは絵が、入院先の病院職員からは色紙が贈られるなど、たくさんの人たちからのお祝いに、とてもうれしそうなお顔をされていました。



**子どもたちが主役の2日間**

～第31回こどもの日かつおまつり

「こどもの日かつおまつり」が5月4・5日、地場センター周辺で行われました。両日とも晴天に恵まれ、会場は県内外からたくさんの家族連れなどでにぎわいました。恒例のかつお節削り大会やかつお一本釣り大会なども行われ、かつお一本釣り大会では、一般の部で草野幸太さん(妙見町)が21kgの“大物”を釣り上げ、12年ぶりに記録を更新しました。草野さんは小学生の部、中学生の部での記録保持者でもあり、今回の記録更新で“三冠”達成となりました。

また、ぶえん鯉のにぎりや鯉船人めしのご当地グルメに舌鼓を打つなど、来場者は楽しい連休のひと時を過ごしました。

**思いのままを表現**

～ふじ美の里アール・ブリュット展

ふじ美の里で生活する7人の絵画や造形作品を展示した「ふじ美の里アール・ブリュット展」が4月23日から5月6日までの期間、南浜館で行われました。

アール・ブリュットとは「加工されていない、生のままの芸術」という意味のフランス語で、美術の専門教育を受けず、湧きあがる衝動のまま表現した芸術のことをいいます。県外の作品展で展示された絵があること、地域住民と入所者がふれあうきっかけになってほしいとの願いから、今回初めてふじ美の里が開催しました。

5月3日に7人は南浜館を訪れ、自身の作品がずらりと並んだギャラリーをうれしそうに鑑賞していました。



**「黒島流れ」の犠牲者の冥福を祈る**

～枕崎市少年の船

枕崎市少年の船が5月19日に行われ、児童・生徒や一般参加者など合わせて約170人が参加しました。

少年の船は、明治28年に起こった枕崎の海難史上最大の悲劇といわれる「黒島流れ」と、懸命に救出に当たった黒島住民の温かさを語り継ぐと、昭和56年に始まりました。

参加者は村営船「みしま」に乗船、黒島沖で洋上慰霊祭を行った後、黒島に上陸し、地元住民の手厚い歓迎を受けました。交歓会では地元の小中学生と和太鼓とジャンベをお互いに教え合うなどし、交流を図りました。参加者の揚村尚可さん(枕崎小6年)は、「黒島流れの話聞いて、島の人たちの温かさを感じました」と話してくれました。